

防災と障害者の人権

辻本 伊公子

テーマ 障害者の人権 (社会参加)

今年の夏から地震や豪雨や台風ということが起こり、多くの人達に災害の恐怖感を与え今尚、怯え眠れない日々を送っている人達も多いと思います。私は車椅子生活なので突然の地震があった時、健常者のように機敏に逃げる自信はありません。こういう災害に襲われた時、高齢者や障害者や子供などの弱者が周りの方達の誘導で避難できるかどうか心配です。健常者の方達も自分の家族のことで精一杯かもしれませんが、それを咎めることはできません。しかし、災害に対する準備は必要だと思います。自分の障害や常備薬などを書いたヘルプカードを準備したり、避難場所の構造や車椅子トイレの位置など調べておく必要性も大切だと思います。日頃から近所の方達との交流も大切だと思います。東日本大震災では、障害者の方が健常者の方の2倍の死亡率ということでした。そういうつらい体験を、今後の震災に活かしていかなければと痛感しています。障害も多様で、聴覚障害者の方には情報がきちんと届くように配慮が必要だと思います。視覚障害者の方には周りの状況をわかりやすく説明をする配慮が必

要と思います。知的障害者の方には避難所の周りの方達の暖かい受け入れが必要と思います。身体障害者の方には逃げる道や避難場所がバリアフリーであるかどうかも重要点です。高齢者の方にはご家族や近所の方達が安全な場所に一緒に移動して頂くことが重要点だと思います。個人として何を準備するか考え、堺市であれば危機管理室など情報を、共有し話しあう必要性を感じています。また、電気、ガス、エレベーターが止まった時の対処や交通アクセスが止まった時の対処も重要点だと思います。後は、水や食料の配布や毛布など寒さから身を守る物資も不可欠です。今から準備して頂きたいのは街全体のいろんな建物の耐久性を調べ改善していくことを、お願いしたいと思っています。災害時に助けられる人達を、事前の準備不足や情報不足などで救助できないことは、人災だと思います。一人一人の人権を、守るために街全体で防災について一緒に取り組んで頂きたいと思っています。